

たちであるから誰もが自分の意見をいう事が出来、共通した子供の遊び、困っている躰のことなどから話し合いが始まりそうした場を通して、子供達は地域の中で育ちつつある事を理解し、協力が必要、地域社会のもつ意義、母親の仕事の広さなどを認識し、一歩一歩、歩みはじめている。

もう一つの方法として読書によって母親の教養を高めたものと希望の人が相寄って読書グループを作る計画をした。保母が中心になって有志的なものから漸次全体のものにして行き度いと思ふ。

以上の様な方法によって家庭との接触を工夫してみた結果、父母の園に対する関心度も大分高まって来たことは認められるし、会合についての出席率もよくなりつつあるが、まだなかなか解決し難い幾多の問題を含む家庭の指導の困難さを感じている。

保育所の現状に於ては保母は眼前の保育の仕事に精一杯で余裕をもたない事などのために企画した事もなかなか実行出来ないし、又実行しようとする時いろいろな隘路にともしれば勇気がくじかれる。

しかし保育者としての出来る限りの努力と情熱とをもって、困難な問題を一つ一つ解決し乍らよりよい保育達成のため子供をそしてそれをとりまく家庭、ひいては地域社会の指導にまで力を注ぐことの出来るようになりたいものと念願する。

調査のまとめ方についてもいろいろな問題があることと思われる。こうした調査をよりよく生かすようにまとめあげて行く為の根本的なものの研究不足を痛感した。

家庭の躰の方針と保育に

見られる児童の実態

日本女子大学

児 玉 省

一 木 友 子

各家庭ではその子女をどういう方針で躰けようとしているか、子供の実体はそれらの点について両親の目から見てどうであるか、又幼稚園の場に於てはどうであるか、親の方針と実体はどんな点で一致し、どんな点でくいちがつているか、又どんな点が欠けているか故にその点を特に留意せられているのか、こういう問題を考察しようとしたのがこの研究である。

研究対象として二つの幼稚園から満五才一六才の児童二四名(男十一人、女十三人)を選び、その両親に対して質問紙法による調査を行った。両親に対する調査の内容は(1)家庭調査及び生活時間調査、(2)躰の方針調査及び児童の実体調査で、躰の方針調査では家庭の躰の方針として親の側で考えている凡そあらゆる項目四六をとりあげ、両親の教育方針乃至は躰の重点がどこにおかれているかを見る為にその四六の躰の方針の項目を印刷したもの配付し、各家庭で最も重要視している項目から二位、三位と順次十位迄印をつけさせた。躰の方針について、親が一位として印をつけた項目には10点を、二位に9点、三位以下順次8点、7点……等を与えて親が最も重要視している項目から順次並べたものが次の表である。

	合計度	24中	8
1 健康	(240)		(8)
2 情操	(239)		(10)
3 食事	(234)		(7)
4 睡眠	(234)		(14)
5 排泄	(234)		(20)
6 清潔	(234)		(10)
7 規律	(234)		(3)
8 家庭のきまり	(234)		(3)
9 従順	(215)		(10)
10 明朗快活	(214)		(12)
11 個性	(212)		(10)
12 辛抱強い	(212)		(11)
13 創造力	(209)		(10)
14 自分の事は自分で	(209)		(9)
15 所有権の尊重	(207)		(12)
16 人に迷惑をかけない	(205)		(9)
17 もった物は必ず見せさせる	(199)		(14)
18 公共物の扱い	(198)		(10)
19 批判力	(197)		(11)
20 他人との協調	(195)		(10)
21 両親	(194)		(9)
22 兄弟姉妹	(194)		(9)
23 整理整頓	(194)		(11)
() 中の240というのは、どの家庭でも健康を第一位にしている事を示すものである。この重要性段階については、家庭でもし10項目でも15項目でも是が非でも躰けたいと云う考えから一位にした人			
24 時間の観念	(192)		(13)
25 丹念で几帳面	(191)		(16)
26 責任感	(191)		(13)
27 仕事の完遂	(191)		(8)
28 自主性	(188)		(13)
29 落ち着いた態度	(186)		(14)
30 自己感情の抑制	(185)		(10)
31 素直	(184)		(12)
32 判断力	(184)		(10)
33 動作が敏捷	(182)		(13)
34 社交性	(176)		(7)
35 我ままを云わせない	(173)		(12)
36 集中力	(173)		(13)
37 勉強	(172)		(11)
38 探求心	(170)		(9)
39 物事に折目けじめを	(169)		(10)
40 色々な事に興味をもてる	(168)		(10)
41 仕事、興味の永続性	(167)		(12)
42 友人関係	(160)		(11)
43 指導力	(155)		(9)
44 家の手伝い	(144)		(8)
45 自発性	(140)		(9)
46 けいこ事	(136)		(7)

もあり、又人によつては一位から十位迄にわたらないで三位で終つてゐる人もあった。こういう家庭での評価を何れも三段階にした。例えば一位―三位、四位―六位、七位―九位、一位―二位、三位―四位、五位―六位等のように。この場合第一段階のものは親が是が非でもやらしたいと願つてゐるもの、第二段階、第三段階は夫々何とかやらしたい、出来ればやらしたいの段階を示すものであった。これらの項目に関する子供の実状及び興味や能力(例えば画が好き、音楽が好き、手先が器用、画が上手、音楽が上手、行動が敏捷である等)についても三段階の評価をさせた。そして前述の希望の水準と実状水準の一致とずれを見ようとした。即ち最も希望してゐる項目はどの程度子供の实状に於て実現せられてゐるか等の観点である。この希望水準と実状水準の一致度も前の表に於て示してある。24中とあるのは24家庭中いくつの家庭で希望水準と実状水準が一致してゐるかという事を示す数字である。

24の家庭とその幼稚園児について、親の希望と実体のずれを、個別的に検討して見ると、次の三つの類型に分ける事が出来る。即ち(1)希望水準より実状水準の方が遙かに高いもの、(2)大多数の項目について実状水準が希望水準の半分であるもの(このタイプに属するものが最も多い)、(3)多くの項目に於て実状水準が希望水準に比較して非常に低いもの、の三つである。

実状水準が希望水準の半分である項目
 家庭のきまり、24中(17) 健康(15) 食事の習慣(13) 清潔(11) 自分の事は自分で(10) 規律のある生活(9) 人に迷惑をかけない(9) 睡眠(7) 個性(7) 情操(7) 兄弟姉妹と仲よく(7) 公共物の扱い(7) 時間の観念(7) 従順(6) 責任感(6) 仕事の完遂(6) 創造力(5) 所有権の尊重(5) 明朗快活な性質(5)

辛抱強い(5) 批判力(5) 判断力(5)

実状水準が希望水準より高い項目

もらった物は必ず見せさせる(11) 家の手伝い(10) 色々な事に興味がある(8) 整理整頓(8) 両親(7) 友人関係(7) 社交性(7) 動作が敏捷(7) 指導力(7) 仕事の完遂(7) 排泄(6) 自発性(6) けいこ事(6) 個性(5) 落着いた態度(5) 物事に折目けじめをつけさせる(5)

全部の家庭での希望がない項目

家の手伝い(22) 動作が敏捷(21) 自己感情の抑制(21) 自発性(21) 友人関係(20) 素直(20) 我ままを云わせない(20) 丹念で几帳面(20) 指導力(19) 色々な事に興味がある(19) 集中力(19) 落着いた態度(19) 整理整頓(19) 自主性(18) 探求心(18) 物事に折目けじめをつけさせる(18) 創造力(17) 社交性(17) 他人との協調(17) 従順(17) 仕事の完遂(17) 仕事・興味の永続性(17) 勉強(17) 辛抱強い(16) もらった物は必ず見せさせる(16) 批判力(16) 時間の観念(16) けいこ事(16) 個性(15) 公共物の扱い(15) 責任感(15) 判断力(15) 情操(14) 明朗快活な性質(14) 両親(14) 兄弟姉妹(12) 自分の事は自分で(12) 所有権の尊重(12) 人に迷惑をかけない(11) 食事(11) 睡眠(6) 排泄(6) 清潔(6) 規律(6) 家庭のきまり(6)

結論

各家庭に於る躰の方針の項目として拾った46項目は身体的な事からはじまって対人関係や社会性、能力及び自発的態度、けいこ事等に至る広範なものを含んでいるが、多くの親達がその子女の躰に於て最も希望し大切に考えているのは健康、生活習慣、情操などであるが、躰の方針と子供に於て実現されている程度が最も合致してい

るのは(1)排泄 (2)睡眠 (3)もらった物は必ず見せさせる (4)丹念で几帳面 (5)明朗快活な性質 (6)所有権の尊重 (7)落着いた態度 (8)動作が敏捷、であった。これに反し同じ生活習慣の中でも親が非常に希望しているにもかかわらず実現困難である事がわかった項目は(1)規律のある生活 (2)家庭のきまりを守らせる (3)仕事の完遂 (4)社交性 (5)指導力、という項目であった。これは全体についても云えるし、個々の家庭についても云える事である。

資料を個別的に考察すれば(1)躰の方針と子供に於てそれが実現されている程度は子供により、家庭によって相当の差がある事がはっきりした。(2)末子や一人子必ずしも兄弟に狭まれている子供に比較して実状水準が低くない。しかし一人子に於ては「自発性」が実現困難である事が示されている。(3)第一子と2番目以下の子供を比較して見ると、第一子の方が実状水準が低いとは限らないが実状水準の方が希望水準より遙かに高い子供、全体的に平均した子供は2番目以下に多い。(4)男女児を比較して見ると例外はあるがやはり同年令なら女兒の方がまattering様である。又男児は11人が割合平均しているのに対し女兒は子供により、家庭による個人差が大きい事が示されている。

子供の興味や能力に対する評価については(1)家庭と幼稚園教師の評価には相当のくいちがいが示された。(2)家庭と教師の評価が一致し易いのは動作、運動能力に関する項目である。音楽、画及び工作に対する興味や能力については、幼稚園教師の方が高く評価する傾向がある。(3)其他の項目についてはそれこそ種々雑多なケースが含まれ一概に云えない。この問題は躰に関する項目に比較してあまりにも一人々々まちまちで明確な判定を下す事が困難である。